

6章

少林寺拳法のすすめ

少林寺拳法の授業で学べること

少林寺拳法は「組手主体」（2人1組で学び合うこと）で技を学びながら、感覚を双方で伝えて分かち合い、そしてさらに高め合っていきます。技能は技能、教えは教えというように学習内容を分けません。「技能の中に教えがある」ので、自分の気付きと先生や仲間からの助言により創造性を高め、論理的に思考・判断し、特に寛容の態度さらには規律も身に付けるなど、生徒の意欲を向上させることができます。

少林寺拳法の授業を実践した担当者の多くは、少林寺拳法の特徴をよく表し、生徒に理解してもらいたい教えとして「拳禅一如」、「力愛不二」、「脚下照顧」、「礼」を挙げます。これらは生徒が少林寺拳法を学ぶ際に、印象に残りやすい表現であるだけでなく、生徒や先生が学校生活において必要であると感じていることでもあります。「拳禅一如」、「力愛不二」、「脚下照顧」、「礼」を授業内で体現し、実感できるようにするためにも「組手主体」による授業展開は欠かせません。

「組手主体」による学び合いで、「行動力が身に付く」「力だけがすべてではない」「やさしさや思いやりを持てる」ことが実感できれば、「生きる力」とはどのようなことかを生徒に分かりやすく伝えられることが可能となります。

授業を行うにあたり、指導者が示範できない場合は、DVDなど視聴覚教材を使用してイメージを持たせることが可能です。また、施設や用具には特に条件はありませんが、正面に武道に関する言葉を掲げるなど場の充実は、お互いに高め合おうという雰囲気を生み、大変効果的です。

日本武道協議会設立 40 周年記念
「中学校武道必修化指導書」
少林寺拳法編

【執筆者】

- 中島 正樹 一般財団法人少林寺拳法連盟中学校武道必修化プロジェクト委員長
富士見丘中学高等学校 教諭
- 合田 雅彦 一般財団法人少林寺拳法連盟中学校武道必修化プロジェクト委員
愛媛県公立中学校 元校長
- 安田 智幸 一般財団法人少林寺拳法連盟中学校武道必修化プロジェクト委員
金光学園中学・高等学校 教諭
- 小井 寿史 一般財団法人少林寺拳法連盟中学校武道必修化プロジェクト委員
笠岡市立金浦中学校 教頭
- 向田 弘之 一般財団法人少林寺拳法連盟中学校武道必修化プロジェクト委員
学校法人禅林学園 法人広報室長
- 高坂 正治 一般財団法人少林寺拳法連盟中学校武道必修化プロジェクト委員
国際武道大学 特任教員 准教授

【参考文献】

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』平成 20 年 9 月 25 日
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成 20 年 9 月 25 日
- 財団法人少林寺拳法連盟『少林寺拳法五十年史』平成 9 年 1 月 1 日
- 一般社団法人 SHORINJI KEMPO UNITY『少林寺拳法読本』平成 25 年 4 月
- 一般社団法人 SHORINJI KEMPO UNITY『少林寺拳法級拳士科目表』平成 26 年 4 月
- 一般財団法人少林寺拳法連盟『中学校保健体育 少林寺拳法 指導の手引』平成 26 年 4 月